

デマンドバス導入事業に係る経過報告について

R5. 10. 11 大崎上島町企画課

1 概要

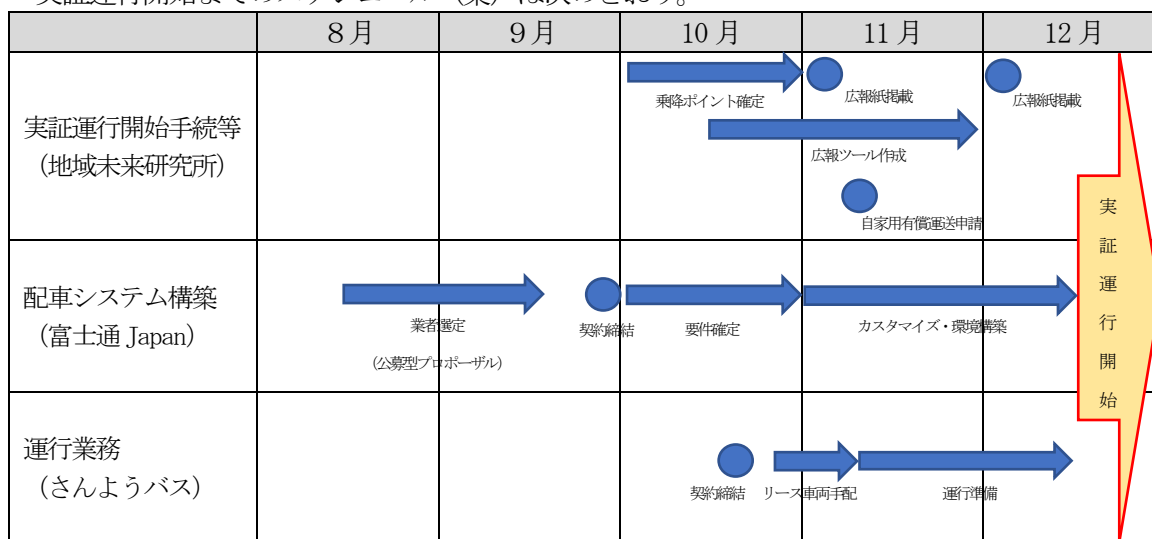
人口減少や高齢化に伴う公共交通機関の利用者減少等により、公共交通事業全体で輸送人員が減少している。このため、ニューノーマルに対応した新たな交通サービスの導入が急務となっており、地域交通の高度化を含めた取組が必要である。

本町では、広島県の「広島型Ma a S推進事業補助金」を活用し、令和3年度に調査事業としてMa a S社会実装計画を策定し、令和4年度に総合事業として1か月間のデマンドバス実証運行を実施した。

令和5年度はその結果を受け、引き続き定時定路線型で運行しているコミュニティバス「おと姫バス」と併行して、令和5年12月中旬から3月までの期間でデマンドバスを実証運行し、その実効性を更に検証する。

2 スケジュール（案）

実証運行開始までのスケジュール（案）は次のとおり。



3 配車システム構築について

昨年度の実証運行において、大きく2つの課題があったため、それらを次のとおり解決する。

(1) 利用者に対する課題の解決

利用者登録及びシステム利用時に、英数字8文字以上のパスワード入力が必要である点が、主に高齢の利用者にとって高いハードルになっていた。LINE連携の導入により、パスワード入力は初回のみとなるシステムを構築する（予定）。

(2) 運行业者に対する課題の解決

実証運行の過程において、大崎上島町、システム開発事業者及び運行业者によりドライバーアプリを大幅にカスタマイズし、バスの利用者はもちろん、運行业者が安全に、安心して使用できるものを構築する（予定）。

4 本格運行に向けた検証

令和4年度は1か月という短い実証期間であったため、定時定路線のおと姫バスを利用していなかった新たな需要に対して高い評価を得た一方で、定時定路線のおと姫バスをはじめとした公共交通機関からの移行については特に結果が得られなかった。

今年度は3か月以上の期間でデマンドバスの乗り方等に係る広報を充実させ、その他公共交通機関の利用頻度の変化等も含めた検証を行うことを予定している。